

平成 30 年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる
「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

平成 31 年 4 月 30 日現在

研究課題名	メディアとしてのエルミタージュ美術館： 現代ロシアの文化政策と文化機関の自律性との関係について	
申請者	氏名	所属機関・職
	巽 由樹子	東京外国語大学 大学院総合国際学研究院・講師

研究成果の概要

本研究課題は、「メディアとしての博物館」という概念にもとづいてエルミタージュ美術館を分析することで、現代ロシアの文化政策・外交と文化機関との協調、齟齬を示し、ロシアにおいて歴史的背景のもと現在までに形成された国家と社会の関係を考察することを目的とする。近年、ロシアの「記憶の政治」が論じられる際に、ロシア国家が文化、教育に介入し、管理する事例がとりあげられることが多いが、ロシアの文化機関は歴史的に固有の主体性を形成してきたのではないかと想定するためである。応募時、本課題は着手したばかりの段階にあり、基礎的な文献の収集と読み込みが不可欠であった。そのため、平成 30 年 7 月に 1 週間、本助成を受けてスラブ・ユーラシア研究センターに滞在し、北大総合図書館とセンター図書室に所蔵された諸資料の収集を行うことができたのは、研究の進捗にとってきわめて重要だった。平成 30 年度中に本研究課題に関わる雑誌論文の公刊や学会発表には至らなかったが、秋に応募した科研費が今年度より採択されたこと、新年度の 4 月にマンチェスター大学よりヴェーラ・トルツ教授を招聘して「記憶の政治」に関わるワークショップを組織したこと、6 月に予定されるスラブ・ユーラシア学会でソ連文化外交の昭和期日本へのインパクトに関わるパネルに参加することという、3 件の成果につながった。本助成が、研究課題についての理解を深め、成果公開に向けた準備に取り組む機会を与えてくれたことに、深く感謝したい。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

「現代ロシアの文化外交と美術館—「記憶の政治」のメディア分析—」

日本学術振興会：科学研究技術費（基盤研究 C）

研究期間：2019 年 4 月 - 2023 年 3 月 代表者：巽 由樹子

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。